

西の菜時記

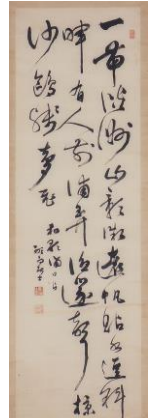
平成25年9月25日発行
第30号

発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会

特集：菜香亭夏休み寺子屋シリーズを終えて

◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆

孫七郎は数々の掛け軸を書いています。そこには書かれた漢詩は、推敲に推敲を重ねた自信作のひとつと言つていいかもしれません。

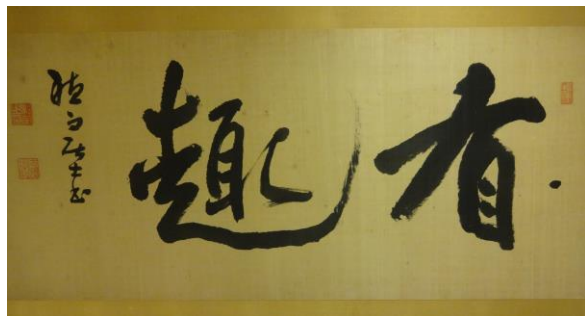


菜香亭所蔵書



洋行先のオランダで

原稿には明治9年という日付も見られ随分年月をかけたことがわかります。その詩誌には、94首もの漢詩がおさめられています。何度か



菜香亭の大広間下の間に掲げてある扁額

この秋、県立山口博物館で「杉孫七郎展」が開催されており、それを参考に孫七郎について紹介します。孫七郎は長州三筆の一人といわれ、政治家でありながら書家としても知られています。藩主毛利敬親に仕え、25歳で幕府の遣欧使節団の一員にも選ばれました。井上馨、伊藤博文らがイギリスに密航したいいわゆる「長州ファイブ」よりも2年早く、孫七郎は藩命で西洋に渡り見聞を広めていたのです。その記録をまとめたのが、「環海詩誌」です。発行は明治37年ですが、

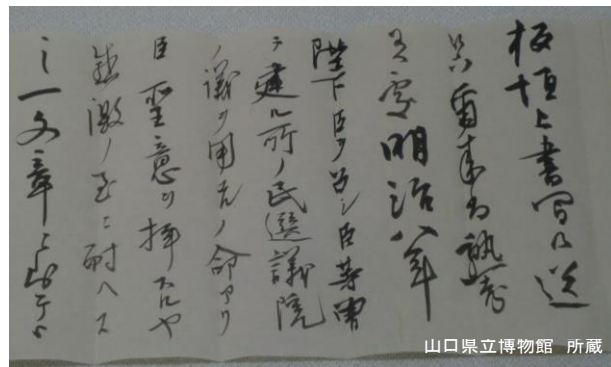
菜香亭には、数々の著名な政治家の書が残っています。その中でひそかに人気を集めているのが「有趣」（おもむきあり）と遺した杉孫七郎の書です。

菜香亭人物録 長州ファイブより先に海を渡った杉孫七郎

孫七郎は、慈善事業にも熱心に取り組みました。今から百十五年前に起こった明治29年（一八九六）の三陸津波の被災者に百円を寄付したという書状が残っています。百円は今でいうと五百万円ぐらいと思われま。昔の政治家は本心に倅いすね。そのほか戦地への見舞金を送ったり、明治33年下関市長府の孤児院が開設された際の資金面を応援するため揮毫料を15年にわたって寄付し運営を支えていたりしていました。歴史や文化に造詣が深く、努力家で、仲間から信望の厚い、冗談好きで、きどらない大らかな孫七郎。そういう人物像から扁額をみると、書がもつと味わい深くなるとおもいます。



菜香亭の名付け親 井上馨と。



政治運営に異論を唱えた板垣退助のことで相談する伊藤博文の手紙。

孫七郎はのち宮内省勤めとなり、宮中で活躍しました。明治17年から明治天皇のお母さん（孝明天皇の皇后）に仕え、明治27年からは皇太子（のちの大正天皇）の世話係をつとめ、習字の先生もしました。元長州藩出身の仲間とはつながりが強く、伊藤博文が政治上の問題からプライベートルな相談まで書き綴った手紙が残っており、孫七郎に絶大な信頼を寄せました。また同世代の井上馨とは文明開化の香り漂うツーショット写真も撮っています。料亭菜香亭で当時としては珍しい洋食に舌鼓をうったかもしれない。

社会貢献に越かした孫七郎

◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

<市民ギャラリー出展作品の紹介>

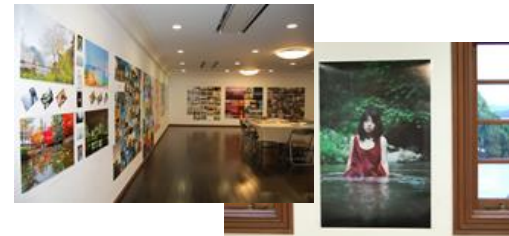
やまぐちの風・光2013 モビールとあかり展
—山口県立大学— 7/10～7/14



第12回よもぎ会作陶展土のかおり～in 山口
—平井陶芸クラブ「よもぎ会」—
7/27～7/28



しゃびやま写真展 ～やまぐち歩撮(ほと)～
—写真美術愛好会@山口— 8/22～8/25



<平成25年度 市民ギャラリーの予定> 10・11月

月日	時間	タイトル	主催者
10/23 ～27	9時～17時	ちよいついぶくアート写真展 ～地撮り山口山口 0707～	Yan 山口アートネットワーク
11/9 ～10	9時～17時 (初日のみ 13時より、最終日のみ 15時まで)	山口のくち ～SCCアート作品展～	山口県立大学 創作サークル SCC
11/13 ～18	9時～17時 (最終日のみ 16時まで)	SL「やまぐち」号写真展 「心のふるさと探そう SLの旅で山口線へ」	SL やまぐち地域振 興会
11/23 ～24	10時～17時 (最終日のみ 16時まで)	ハーダンガー刺しゅう展 北欧のこもれび in 山口	Happy Joyous Hardanger ちくちくの会

出展ご希望の方は、2ヶ月前までにお申し出ください。
(お問い合わせ) TEL: 083-934-3312
FAX: 083-934-3360

菜香亭と秋田フキ

菜香亭顧問 福田礼輔

現菜香亭の庭のひと隅に秋田フキの数株がある。これは移築以前の八坂神社近くにあった旧亭時代、150畳大広間の東側に沿った庭に菜香亭と縁つづきだった秋田の旧家から移植されたもので、茎の長さが2メートル、葉の幅は1メートルに及び山口ではめずらしく、大広間に来席した人たちの目を楽ませているが現在地に移動後秋田フキも移植された。

秋田フキは大型のフキとしては全国的に知られており、北海道、東北の秋田、岩手に自生する寒冷地特有用で、葉柄の空洞も大きく砂糖漬などに加工され明治15年頃から土産として知られてきた。

江戸中期の「和漢三才図説」に「津軽のフキは肥大にして茎のまわり四、五寸、葉の経三尺余もあり以て傘に代えて雨を防ぐのが南方の人これを信ぜず」とあり、明治初期から秋田の仁井田地方を中心として盛んに栽培されるようになり、有名な秋田音頭「秋田の国では雨が降っても傘などいらぬ」の一節まであるほど。

フキは他の野菜にくらべて野生種だけにきわめて少ない。地下茎による繁殖を生とする自然派である。秋田フキ以外のフキ主産地は愛知、京都、奈良、岡山、香川、徳島、埼玉、群馬などだが山口県は栽培が少ないらしい。

フキは栽培の歴史がもっとも古く、利用範囲も広く長い。フキはキク科の多年草で、アスパラガスと同様に地下茎を伸ばして育つのだが繁殖力は旺盛という。

ところで、菜香亭の秋田フキは料理に使用されたのではなく、あくまで観賞用として庭に育成されてきたし、これからも伝承的に秋田フキを見守りたい。

露のとう足もとにひとつ 山頭火

